

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-236519

(43) 公開日 平成10年(1998) 9月8日

(51) Int.Cl.⁹

B 6 5 D 65/38
33/00

識別記号

F I

B 6 5 D 65/38
33/00

A

審査請求 未請求 請求項の数1 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平9-91264

(22) 出願日 平成9年(1997) 2月21日

(71) 出願人 597049891

荒井 章

大阪府枚方市楠葉花園町5番2-1511号

(72) 発明者 荒井 章

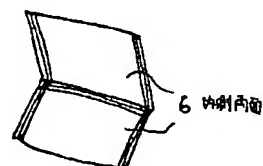
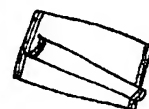
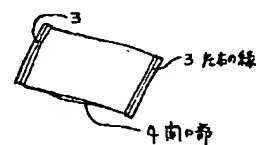
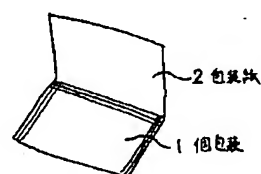
大阪府枚方市楠葉花園町5番2-1511号

(54) 【発明の名称】 付加価値機能が付いた個包装

(57) 【要約】

【課題】 この発明は、従来からあるキャンディ、飴、チョコレート、おかき等の小物商品の個包装では、付加価値機能が発揮出来なかったもので、それを発揮出来る個包装に工夫したものである。

【解決手段】 小物商品の個包装の片側を、片側と繋っている、又は繋っていないが、片側と同形の包装紙で、それぞれ片側を覆う。而して個包装と包装紙の左右二辺の縁同志を被着し、粘着し、又融着し、接着して袋状、又は筒状の深い二重にする。斯くして、外見は従来の個包装と変わらないが、袋状、又は筒状の開口部の包装紙を引っ張ると、被着、粘着の場合は簡単にはがれて、又融着、接着の場合は開口部の包装紙の両端に、包装紙の縁に沿って縦に設けた切れ目から、包装紙が縦に破れて二重の内側両面が現われる。これら内側両面を付加価値機能発揮の場とする構造の個包装。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 小物商品の個包装の片側を、片側と同形の包装紙で覆い、左右二辺の縁同志を引っ付けて深い二重にする。その二重の内側両面を付加価値機能発揮の場とする事の特徴とする個包装。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、キャンディ、飴等の小物商品の包装に、付加価値機能が付いた個包装に関するものであります。

【0002】

【従来の技術】従来からあるキャンディ、飴、おかき、チョコレート等の小物商品の個包装商品は、単に味を賞味するだけの嗜好品であり、消耗品と考えられ、又その単価の廉い個包装商品に景品等が当る付加価値をつける発想はありませんでした。従って個包装の構造も、その機能を発揮出来るようになっていませんでした。斯くして従来の個包装商品に景品等をつける付加価値をする場合には、その入れ物である袋、又は函で行っていました。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】生命保険会社20社、セールスマン数42万人、このセールスマン達は、会社、工場、官庁、一般家庭と全国民を対象に生命保険の販売に従事していますが、その販売の時、顧客へのアプローチ、人間関係づくりにサービス物品として、市販されている商品、キャンディ、飴、おかき、チョコレート等の個包装商品を活用します。これらの商品は、あくまでも味を楽しむ事に重点がおかれているだけで、生命保険本来の営業を支援するには不十分なものでした。営業用の商品である以上、プラスアルファとしての付加価値が付いておれば良いのですがこれありません。そこで何か付加価値をしようとして、個包装の表面に物語を、又流行語とか血液型等を印刷するなどして、顧客を楽しませ、又対話出来るように工夫をこらす事が、やっとの状態でした。而してゲーム、クイズ、占い等が付加出来る余地はありません。勿論景品が当る付加価値等は出来ませんでした。又ビール業界の数社は自社商品としてキャンディを販売しており、生保セールスマンもこれを活用していますが、そのキャンディの個包装に付加価値機能が付いておれば、当然景品にビール等が付けられ、この付加価値競争、広告宣伝の時代に対応出来るのですが、従来の個包装ではそれも出来ません。そこで、個包装にも付加価値が出来るように下記のような構造にする事で解決しました。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明は個包装に付加価値機能を発揮させるため、小物商品の個包装の片側を、個包装と繋っている包装紙、又は繋っていないが、片側と同形の包装紙で、それぞれ片側を覆う。而して個包装

と包装紙の左右二辺の縁同志を被着し、粘着し、又融着し、接着して袋状、又は筒状の深い二重にする。斯くして外見は従来の個包装商品と殆んど変わらないが、袋状又は筒状の開口部の包装紙を引っ張ると、被着、粘着の場合は、簡単にはがれて、又融着、接着の場合は、開口部の包装紙の両端に、包装紙の縁に沿って縦に設けた切れ目から包装紙が縦に破れて、袋状、又は筒状の二重の内側両面が現われる。この内側両面を付加価値機能を発揮する場とする構造にする事で解決しました。

【0005】

【作用】以上のようにした袋状、又は筒状の開口部の包装紙を引っ張ると袋状のとき

(A) 被着、粘着の場合は簡単にはがれて、個包装とそれに繋った包装紙の二つに分れる。(図1)

(B) 融着、接着の場合は開口部の包装紙の両端に、包装紙の縁に沿って縦に設けた切れ目から包装紙は、縦に破れて、個包装とそれに繋った包装紙との二つに分れる。(図2)

筒状のとき

(A) 被着、粘着の場合は簡単にはがれて、個包装と包装紙との二つに分れる。(図3)

(B) 融着、接着の場合は開口部の包装紙の両端に、包装紙の縁に沿って縦に設けた切れ目から包装紙は縦に破れて、個包装と包装紙との二つに分れる。(図4)

而して、個包装とそれに繋った包装紙、又は個包装と分れた包装紙、これら包装紙の裏面をくじとして即座に景品が当たったり、又所定の枚数の包装紙と豪華景品等が当る抽選券と交換する等の付加価値、又二重の内側両面又は片面にゲーム、クイズ、占い、格言等が印刷されており、それら有形無形の付加価値を消費者は楽しめる。

【0006】

【発明の効果】この発明による付加価値表示の場は、二重の内側両面と広く、その活用には就いては、有形、無形の付加価値が行えるだけでなく、企業のP. R. , 商品の広告など広告媒体としての機能も発揮出来るので、より機能的であり、且経済的である。又包装紙を個包装から離す場合、包装を破って中身商品を外気にさらす事がなくきれいに出来るので、衛生的である。消費者にとっては、景品、懸賞の当る抽選は従来は、袋単位、函単位で行われ、一袋、又は一函について一回のチャンスしかなかったが、個包装単位で行うのでそのチャンスは多くなる。以上有形の付加価値と共に、無形の付加価値であるゲーム、クイズ、占い等を楽しみ乍ら味を賞味することで、二重、三重の楽しみを味う事が出来る。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の個包装と包装紙が繋っている場合の左右二辺の縁同志を被着、粘着した斜視図である。

【図2】本発明の個包装と包装紙が繋っている場合の左右二辺の縁同志を融着、接着し切れ目を設けた斜視図である。

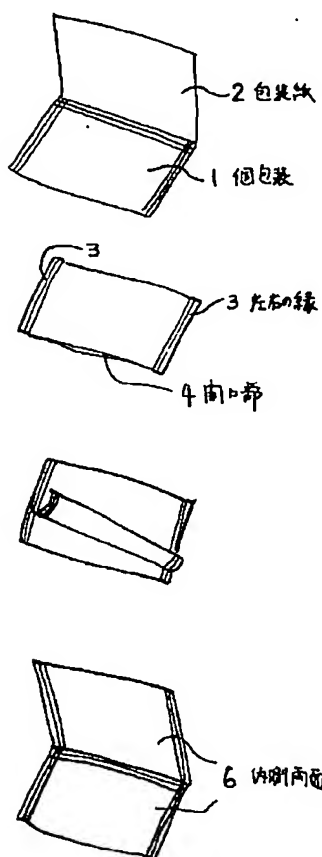
【図3】本発明の個包装と包装紙が繋がっていない場合の左右二辺の縁同志を被着、粘着した斜視図である。

【図4】本発明の個包装と包装紙が繋がっていない場合の左右二辺の縁同志を融着、接着し、切れ目を設けた斜視図である。

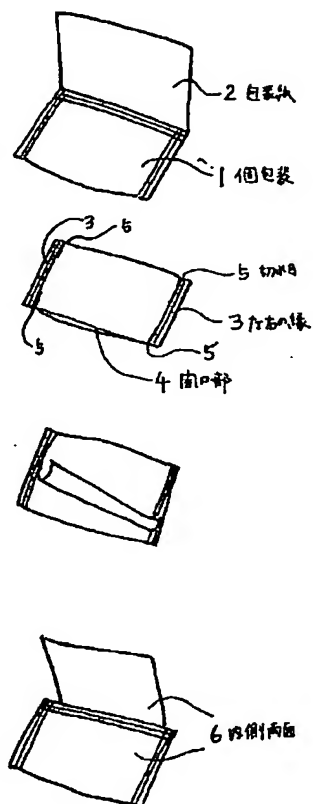
【符号の説明】

- 1 個包装
- 2 包装紙
- 3 左右の縁
- 4 開口部
- 5 切れ目
- 6 内側両面

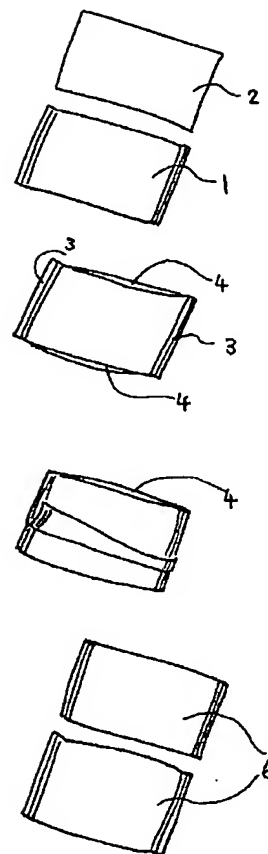
【図1】



【図2】



【図3】



【图4】

